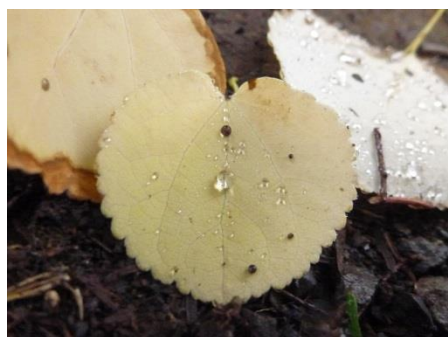




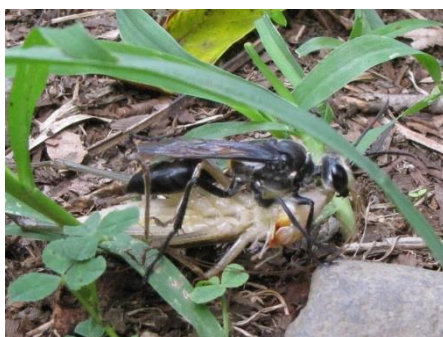
愛川ふれあいの村9月の風景

平成25年 9月 自然のたより

上旬は残暑もあり、昼間はセミの声が聞こえました。暦が秋になっても夏の昆虫たちはまだ元気に活動しています。日が落ちる頃には、秋虫たちの声が響いています。中旬には待ちに待った雨が降り、植物は喜んでいる事でしょう。雨が空気を冷やし、日が暮れるとさらに涼しくなり、過ごしやすくなっています。



雨上がりのカツラの落葉



ウマオイを運ぶクロアナバチ



カクトラノオとヒメクロホウジャク



開花したヒガンバナ



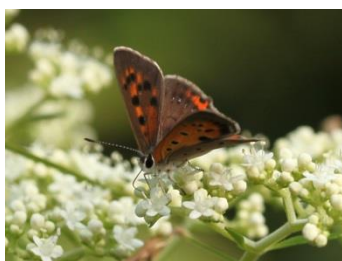
白いサルスベリの花



秋の七草 クズ



高取山山頂のススキ



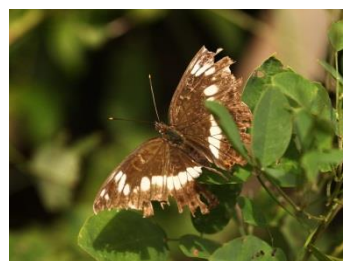
オトコエシとベニシジミ



蜜を味わうハナムグリ



キバラヘリカメムシ



イチモンジチョウ



首を傾げるアキアカネ



シジュウカラのヒナ



大きなトチの実



ガンタケの幼菌

★キャラメルのおいがする?!カツラの落ち葉★

今の愛川ふれあいの村には、いいかおりが漂っている場所があります。

管理棟から、かわせみ棟へ向かう途中の道に、とてもいい匂いのする場所があります。立ち止まってみると、目の前には大きなカツラの木。足元にはカツラの落ち葉があります。

このにおいは、「カツラの落ち葉」から出ています。「マルトール」というにおい成分が含まれており、キャラメルのおいと同一成分です。緑よりも黄色や茶色の古い落ち葉の方が強いにおいを放ちます。ちぎったりもんだりすると、さらに、においが強くなりますのでお試し下さい。



★クロアナバチの生態★

村内を歩いていると、クロアナバチが自分の体よりも大きいウマオイを一生懸命運んでいました。ウマオイを生きたまま捕獲するため、クロアナバチは麻酔効果のある毒を使います。地面にある巣の中に、動けなくなったウマオイを運び、生きたままのウマオイに卵を産みます。

ウマオイは生きたまま、孵化した幼虫に食べられてしまいますが、クロアナバチにとっては子孫を残すための必要な手段なのです。この手段を用いることで、子どもの安全を守り、そして確実に食料を与えることができます。クロアナバチの自然界を生き抜く手段に驚かされました。攻撃的なスズメバチと比べると大人しく安全なハチです。機会があれば、刺激しないように観察してみてもいいかもしれません。



▲ウマオイを運ぶクロアナバチ



▲巣に入ろうとしている場面

あま〜いにおい



発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611

HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：吉田文雄・葉青芳

文章：葉青芳・大瀧裕基子

漫画・イラスト：葉青芳

編集：葉青芳・加藤文昭

愛川ふれあいの村
で、検索★

